

エコアクション21 環境経営レポート 2025年

対象期間2025年1月1日～2025年12月31日



発行日 2026年 3月 2日

平沢電機株式会社

1 組織の概要

1-1 事業者名、所在地、事業の概要 事業の規模

1-2 沿革

1-3 設備概要

2 対象範囲

・環境経営組織図

3 環境経営方針

・環境経営理念 環境経営方針

4 環境経営目標

・中期環境経営目標

5 環境経営計画

・2025年環境経営目標

6 環境経営計画に基づき実施した取組内容（実施体制を含む）

7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価

（実績には二酸化炭素排出量を含む）、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

7-1 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価

7-2 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

8 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

「環境法令等登録書兼チェック表」より

9 代表者による全体評価と見直し・指示

マネジメントレビューより

10 その他の取り組み、トピックス

10-1 6年連続「健康優良法人」認定

10-2 長野県伊那市 省エネ診断受診

10-3 長野県 SDGs推進企業としての取組み、報告

10-4 総合防災訓練・全体研修実施

1. 組織の概要

1-1 事業者名、所在地、事業の概要、事業の規模

- (1) 事業者名 平沢電機株式会社
代表者名 代表取締役 平澤 敏樹
- (2) 所在地 本社工場 〒399-4431長野県伊那市西春近2900番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 事務局 総務部門長 中村 理絵
担当者 同上
連絡先 電話 0265-72-4136 F A X 0265-76-1990
ホームページ <https://www.hirasawadenki.com/>
e-mail info@hirasawadenki.com

(4) 事業の規模等

- 1) 創業 昭和35年7月
2) 事業規模 右表
3) 資本金 1000万円

活動規模	単位	2023年	2024年	2025年
生産量	百万円			
売上高	百万円	592	722	669
従業員	人	73	63	60
床面積	m ²	7260	7260	7260

(5) 事業内容

精密機器の部品加工・検査・組立

1-2 沿革

- 昭和35年 日立家電販売修理を業務として平沢電機株式会社を設立
昭和40年 工作所設立、オリンパス製品加工開始
昭和43年 オリンパス顕微鏡組立開始
昭和49年 オリンパス光学、カメラ組立開始
昭和59年 本社工場（延べ床面積3,300m²）建設工作所・中央工場を併合集約
昭和63年 姉妹会社(株)アジアエレクトロニクス設立
平成 1年 信濃特機(株)子会社の天竜特機(株)を引き継ぎグループ 3社とする
平成 2年 資本金1,050万円に増資
平成 7年 本社工場南側増築工事完了
平成 9年 本社工場北側増築工事完了
平成12年 ISO9001取得
平成17年 1F北側工場改築（延べ床面積5,980m²）
平成18年 環境 エコアクション21取得
平成19年 北側新工場建築（5軸加工機専用）（延べ面積7260m²）
平成20年 厚生労働省快適職場認定
平成21年 エコ通勤優良事業所認証
平成25年 長野県労働局長奨励賞受賞
平成27年 エコアクション21 登録・認証10年継続事業者表彰
令和 1年 AMシステムズ(株)業務提携
令和 2年 JIS Q 9100 取得（ISO 9001:2015 移行済）

1-3 設備概要

種類/Category	メーカー/Maker	形式/Type	移動量/Distance X・Y・Z(mm)	特徴/Features	台数 /Number	
マシニングセンタ/MC	安田工業/YASDA	★YBM-1200N ③	X3000 Y2100 Z1500	横形 4パレット仕様 /Transversal 4 Pallets	1台/1ea	
	新日本工機 /SHIN NIPPON	RB-350F ②	X8000 Y3500 Z1700	門形 5軸 /Gantry 5 Axis	1台/1ea	
	東芝機械 /TOSHIBA MACHINE	MPF-3140DS	X4000 Y3100 Z715	門形/Gantry	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	a51	X560 Y560 Z560	横形 8パレット仕様 /8 Pallets	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	★a51nx ⑤	X560 Y640 Z640	横形 立体3段パレット仕様 /3 Decker Pallets	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	★a51nx	X560 Y640 Z640	横形 2パレット仕様 /2 Pallets	2台/2ea	
	牧野フライス/MAKINO	★a81	X900 Y800 Z1020	横形 8パレット仕様 /8 Pallets	1台/1ea	
	安田工業/YASDA	★H40i	X875 Y740 Z685	横形5軸立体2段パレット仕様 /5 Axis 2 Decker Pallets	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	★a61nx	X730 Y730 Z680	横形5軸立体3段パレット仕様 /5 Axis 3 Decker Pallets	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	★a500Z ④	X730 Y750 Z500	横形5軸立体3段パレット仕様 /5 Axis 3 Decker Pallets	1台/1ea	
NC旋盤/NC LATHE	牧野フライス/MAKINO	FNC156	X1500 Y600 Z560	立形/Vertical	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	GN1712	X1700 Y1200 Z700	立形/Vertical	1台/1ea	
	ツガミ/TSUGAMI	NU4Y	X135 Y50 Z190		3台/3ea	
	ヤマザキマザック /YAMAZAKI MAZAK	★INTEGREX i-500S 2500U ①	X845 Y430 Z2594	背面加工可能 /Back Face Processing	1台/1ea	
	ヤマザキマザック /YAMAZAKI MAZAK	★INTEGREX 200-ⅢS	X580 Y160 Z1045		1台/1ea	
	ヤマザキマザック /YAMAZAKI MAZAK	★INTEGREX 300-ⅢS	X630 Y230 Z1585	背面加工可能 /Back Face Processing	1台/1ea	
	ヤマザキマザック /YAMAZAKI MAZAK	INTEGREX300Y	X580 Y210 Z1095		1台/1ea	
	森精機製作所 /MORI SEIKI	ZL-250MC	X235 Y170 Z615		1台/1ea	
	NCフライス盤 /NC MILLER	牧野フライス/MAKINO	AEV-85	X850 Y500 Z400		1台/1ea
	三次元測定器 /3 Dimensional CMM 新	ミットヨ/MITUTOYO	★CRYSTA-Apex V122010	X1205 Y2005 Z1005	リアルタイム温度補正機能標準 装備	1台/1ea
	ミットヨ/MITUTOYO	CRYSTA- ApexS9106	X905 Y1005 Z605		1台/1ea	
三次元画像測定器	キーエンス/KEYENCE	LM-100TL		3つの方法により高精度測定を実現	1台/1ea	

使用しているCAD/CAMソフト/
Using CAD/CAM software

- VERICUT (CGTech)
- AutoCAD (AUTODESK)
- CATIA V5(Dassault Systems)
- NCVIEW (Cimple Tech)
- CAM-STAFF (SOFTECh)
- Mastercam (CNC Software) 3台/3ea
- SolidWorks (Dassault Systems) 3台/3ea



2. 対象範囲

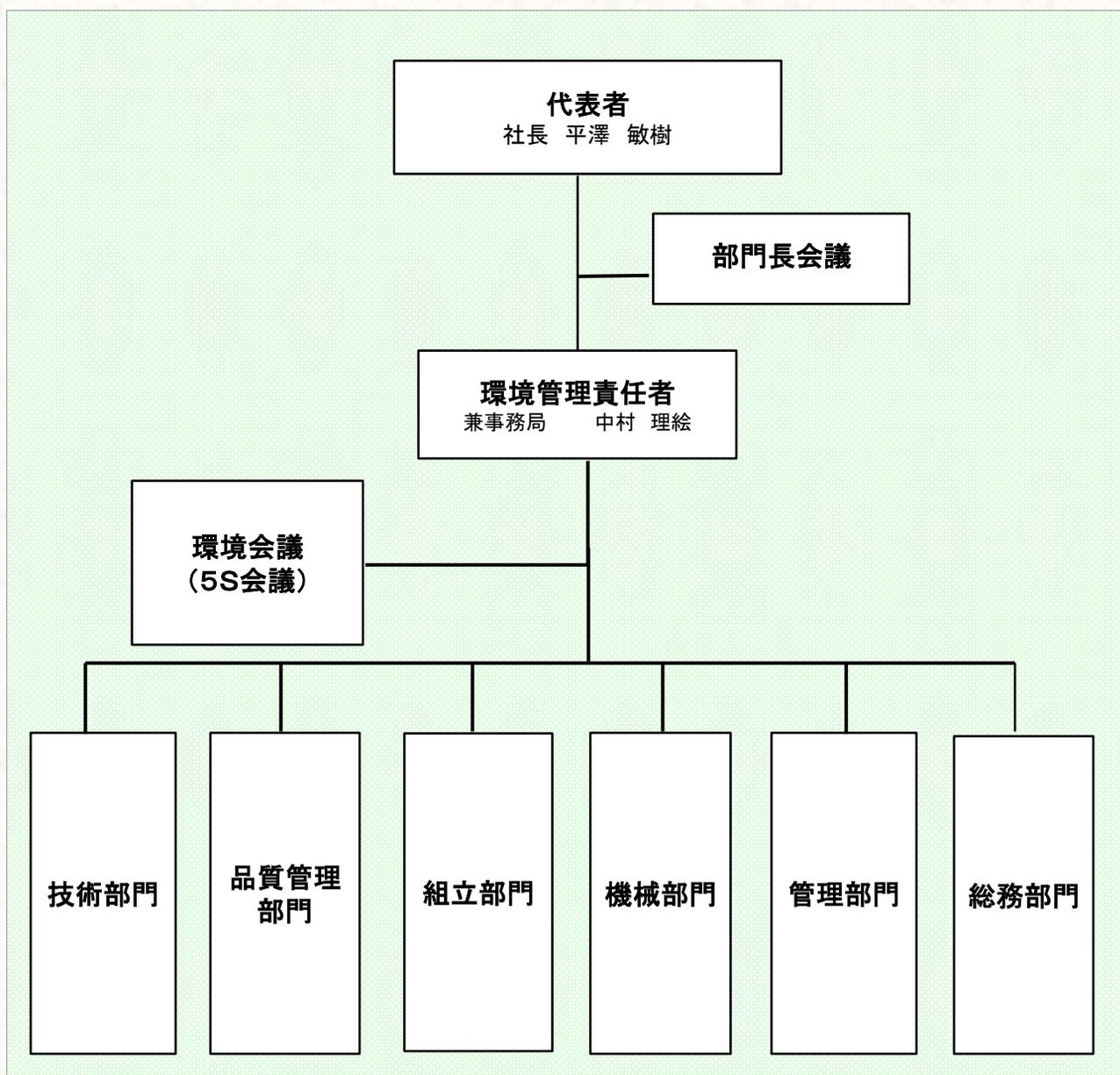
対象期間： 2025年1月1日～2025年12月31日

発行日： 2026年2月27日

対象範囲： 長野県伊那市西春近 2898番地～2900番地にある平沢電機株式会社の所有するすべての土地・建造物とそこで働く全従業員が対象組織であり、その組織のすべての活動をもってエコアクション21に取組み、環境経営システムを構築、運用、維持するものとする。

平沢電機株式会社は以下の組織に基づき環境活動を行っている。

E A 21環境経営組織図



3. 環境経営方針

<平沢電機株式会社 環境経営方針>

環境経営理念

自然環境に優れたこの地に存在する私達 平沢電機株式会社は、この豊かな自然環境に感謝と誇りの念を持ち、一人ひとりが自主的な環境保全の意識を持って環境負荷低減に向けた活動を行い、人と地球にやさしい工場作りを目指します。

環境経営方針

- 1.適用される環境関連法規等や当社が約束したことを遵守します。
- 2.製造部門での品質安定化・製造工程短縮化によって二酸化炭素排出量・使用化学物質・廃棄物・水の使用量の削減、及び省資源の推進をはかります。
- 3.事業活動によって生じる廃棄物のリサイクル化に取り組みます。
- 4.環境や資源に配慮した製品や原材料調達を心がけます。
- 5.水質汚濁の防止に努めます。
- 6.全従業員に朝礼、会議、研修、掲示等でこの環境方針を周知・理解させ、環境に関する教育訓練を行います。
- 7.従業員にエコ通勤をすすめ、社用車でのエコ運転の実施に努めます。
- 8.経営における課題とチャンスを考慮して環境経営目標を定め、それに取り組み、定期的に見直しをすることにより環境経営の継続的な改善を行います。

2018年12月25日
平沢電機株式会社
代表取締役社長 平澤 敏樹

4. 環境経営目標

・中期環境経営目標（2025-2027）は以下の通り

環境目的	具体的目標	責任者/対象部門	基準年度 or 基準値	2025年	2026年	2027年
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素の排出量削減	総務部門長/ 全社	前年実績 0.5%減	2024年実績 0.5%減	2025年実績 0.5%減	2026年実績 0.5%減
	冬季（12月～2月）を除いたエコ通勤の維持継続・エコドライブ実施（管理部門）	総務・管理 部門長/全社	2024年目 標値+1日	2つのデマンドコントローラー制御・節電・ 空調設備管理 エアコン稼働ローテーション		
廃棄物排出量削減	可燃ゴミと廃油削減	総務部門長・ 機械部門長 (廃油) /全社	各前年実績 0.5%減	2024年実績 0.5%減	2025年実績 0.5%減	2026年実績 0.5%減
	機械・備品の長期使用	製造部門長/ 製造部門	部門目標	各種メンテ・点検の実施・修理実施・部品リ サイクル促進		
水使用量削減	水源投入量維持管理	総務部門長/ 全社	前年実績の 0.5%減	2024年実績 0.5%減	2025年実績 0.5%減	2026年実績 0.5%減
	使用禁止物質の使用 禁止 使用化学物質削減管理	管理・製造 部門長/ 同部門	維持 部門目標	漏水チェック、生活水と洗浄・バレル水・ 切削水等管理		
グリーン購入の実施	グリーン購入継続維持	総務・管理 部門長/ 同部門	活動維持	各部門目標	各部門目標	各部門目標
	売上・利益UP	総務・管理・ 技術部門長/ 同部門	部門目標	取引先使用禁止物質調査・維持 部門使用化学物質管理削減		
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・ 技術部門長/ 同部門	部門目標	各部門目標	各部門目標	各部門目標
	工程時間削減・環境 負荷削減の工夫	製造・技術 部門長/ 同部門	部門目標	新規取引先の開拓・各種経費削減・本業強 化・治具改善		
	不良損金削減	品質管理 部門長/ 機械部門	品質目標と 同じ	各部門目標	各部門目標	各部門目標
				工数把握、工程短縮方法の検討、プログラム 修正・コスト削減 工夫 検証		
				品質安定化、3Sの徹底、不良発生原因調査・ 対策検討 実施		

5. 環境経営計画

・2025年環境経営活動計画

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等	2025年の主な行動計画
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素の排出量削減	総務部門長/ 全社	前年実績 0.5%減 (対昨年毎月)	①デマンドコントローラー・スマートクロックによる監視・管理 ②節電対策実施 ③節電設備検討 ④省エネ委員活動 ⑤節電表による管理継続
	冬季（12月～2月）を除いた エコ通勤の維持継続・エコドライブ実施 (管理部門)	総務・管理部門長/ 全社	32日/月以上	①エコ通勤呼びかけ、活動報告掲示 ②駐輪場整備・自転車点検整備等 ③信州スマートムーブ参加 ④社用車のエコドライブの実施
廃棄物排出量削減	可燃ゴミと廃油削減	総務・機械部門長 (廃油) /全社	前年実績 0.5%減 (ゴミ 145.6kg/月 以下) (廃油1.55t/月 以下)	①リサイクルゴミ仕分け徹底呼びかけ ②月ごと結果発表掲示 ③コピー両面使用 ④電子媒体促進、配布書類削減 ⑤廃棄切削油把握と削減 ⑥油漏れ対策
	機械・備品の長期使用	製造部門長/ 製造部門	部門目標	①予知保全を考慮した各種設備備品日常・定期点検の実施 ②整備点検教育の実施 ③各種精度点検の実施 ④レベル点検 ⑤設備保全技能教育
水使用量削減	水使用量維持管理	総務部門長/ 全社	前年実績1%減 (103.4 t /月 以下)	①毎月使用量内訳再把握 ②水漏れ点検 ③生活排水の節水呼びかけ ④月使用量のグラフ作成掲示
化学物質使用量削減	使用禁止物質の使用禁止 使用化学物質削減管理	管理・製造部門長/ 同部門	維持 部門目標	①使用禁止物質の含有量調査（客先調査協力時）記録 (管理部門) ②新規溶剤等購入時にSDS取得 ③主要溶剤・切削油管理・削減（製造部門）
グリーン購入の実施	グリーン購入継続維持	総務・管理部門長/ 同部門	活動維持	①グリーンサプライヤーからの購入維持 ②グリーン調達基準に基づく購入継続
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・技術各 部門長/同部門	部門目標	①新規品の取り込み、新規開拓 ②材料費の見直し ③経費節減 営業外収益
	工程時間削減・環境負荷削減 の工夫	製造・技術部門長/ 同部門	部門目標	①工数把握 加工時間短縮 ②工程管理表の有効活用 ③プログラム修正 ④工程削減治具作成 ⑤外段取りの構築 ⑥環境負荷削減の工夫・検証
	不良損金削減	品質管理部門長/ 機械部門	23万/月以下	①不良集計表の作成・掲示 ②不良原因調査・対策実施 ③不具合対策表・不良損金報告書作成

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容（実施体制を含む）

1 排出量削減

- ① デマンドコントローラー・スマートクロックによる日々の電気使用の監視・管理と電力契約の切り替えによる電気料金削減（総務部門）
- ② 省エネ委員活動-----毎日の節電内容を記録、結果を部門毎に全社掲示（全部門）
- ③ 設備の長期使用・故障対策活動のレベルアップの為、設備保全技能教育を機械部門の全管理者が受講し技能検定1,2級取得（社長・機械部門）
- ④ 節電設備推進—全て水銀灯のLED化完了、蛍光灯のLED化の推進継続
(総務・技術部門)
- ⑤ 毎月月初に電気使用量とCO2排出量のグラフを全社掲示（総務部門）
- ⑥ 長野県緑の募金への寄付 令和7年3,743円（総務部門）

2 廃棄物排出量削減

- ① リサイクルゴミ仕分け徹底と可燃ゴミ目標管理・グラフ掲示（総務部門）
- ② 配布書類削減のため各種会議でのプロジェクター利用推進（総務部門）
- ③ 電子媒体促進---公的機関提出物関係電子申請移行推進（総務部門）
- ④ 廃棄切削油 把握と削減---削減目標管理、グラフ掲示（機械部門）
- ⑤ 油漏れ対策----職場の3S・機械メンテの徹底と修理等を削減（機械部門）
- ⑥ 予知保全を考慮した各種設備備品日常・定期点検の実施（技術部門）
- ⑦ 整備点検教育の実施/各種精度点検・レベル点検実施（機械部門）
- ⑧ 設備保全技能教育の奨励---令和7年-機械保全技能士資格合格者 1級1名
(機械・技術・管理部門)

3 水使用量削減

- ① 毎月使用量内訳把握と管理 生活使用水、機械職場4箇所の使用量計測管理、月次使用量のグラフ作成掲示（総務・機械部門）
- ② 水漏れ点検の毎月実施（期間内水漏れ無し）（総務部門）
- ③ 生活排水の節水呼びかけ推進(全部門)

4 化学物質使用量削減

- ① 取引先より使用禁止物質の含有量調査（管理部門）
- ② 化学物質購入時にSDS取得とSDS管理（総務・使用部門）
- ③ 主要溶剤の管理削減、適正な化学物質管理に向けた取組（組立部門）

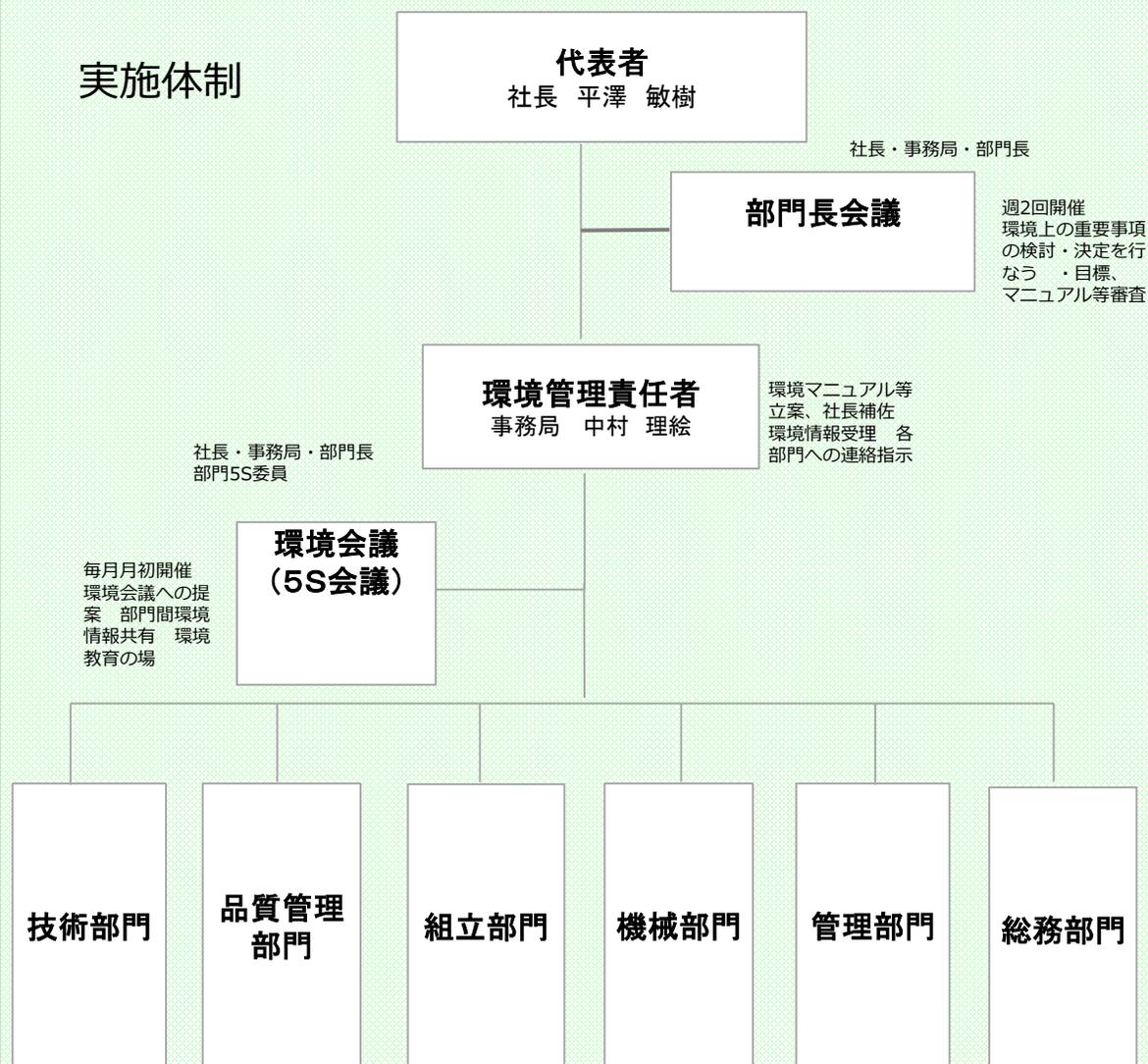
5 グリーン購入の実施

- ① グリーンサプライヤーからの購入維持とグリーン調達基準に基づく購入継続中
(総務・管理部門)

6 製品への環境配慮その他（部門毎実績）

- ①管理部門---新規品の取込み → 毎月 19P 獲得
- ②技術部門--新規品の取込み、工程時間削減、合理化による負荷削減 → 年間 68 件実施
- ③総務部門--売上増のため助成金利用、資金運用 → 年間 12 件実施
- ④機械部門--加工時間の短縮、工程の短縮、治具化 → 年間 18 件実施
- ⑤組立部門--工程時間削減のための改善 → 年間 12 件実施
- ⑥品質管理部門--不良損金削減23万以下 → 年間平均 ¥ 359,586

実施体制



部門長と（5S委員）は 全社目標のもとに作成した部門目標・計画に沿った部門内環境活動を実践し報告する。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果

(評価実績には二酸化炭素排出量を含む)、
並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

7-1 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価

2025年度環境経営目標進捗表

環境目的	具体的目標	責任者/対象部門	目標値	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	対象期間累計平均値達成状況	当月コメント(未達時)
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量前年比 1%減	総務/全社	Kg-CO2 /年 昨年月比0.5%以下 (99%以下)	111.4	95.2	96.0	106.4	99.9	113.3	100.4	101.6	104.1	96	96	99.5	101.9	平均101.9だが対売上134%のため評価
	エコ通勤の維持継続 エコドライブの実施	総務・管理部門長/全社	エコ通勤月平均32日以上(12月~2月除く)	×	○	○	△	△	△	×	△	△	△	△	○	△	
廃棄物排出量削減	可燃ゴミ削減・廃棄物管理	総務部門長・機械部門長/全社	ゴミ145.6kg/月 廃油1.55t/月以下	86 1.5	148 0	158 1.7	140 2.4	119 0	187 2.0	162 2.5	175 0	147 1.5	127 1.7	195 0	133 2.5	148.1 1.4	ゴミ・廃油共に微増
	機械・備品の長期使用	各部門長/全社	各部門目標	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	48-48 通期達成を評価
水使用量削減	水使用量維持・管理	総務部門長 機械部門長/全社	103.4 トン/月以下	73	86	87	82	75	85	101	81	93	78	69	76	82.17	通期達成を評価
化学物質使用量削減	取引先使用禁止物質の使用中止/化学物質削減	対象部門長/ 管理製造部門長	活動維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	通期達成を評価
グリーン購入の実施	グリーン購入維持	対象部門長/ 総務 管理	活動維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持	通期達成を評価
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP(経費削減) 新規品獲得	対象部門長/ 管理・総務・技術	部門目標	3-3	3-3	3-3	3-3	3-3	3-3	3-3	3-3	3-3	3-3	3-3	3-3	36-36	通期達成を評価
	工程時間削減・環境負荷削減の工夫	対象部門長/ 機械・組立・技術・品質	各部門目標	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	48-48 通期達成を評価
	不良損金削減	品質管理部門長/ 機械	23万/月以下	85,286	133,492	459,043	652,300	244,290	444,470	919,259	10,3110	367,539	196,913	493,697	216,028	359,586	大幅な未達となり、原因究明、対策を図ること

○は達成・維持継続中 △は目標値10%未満 ×は10%以上開きがあり未達 -は評価不能 他各目標達成部門(上段左の数)が8割以上○ 5割以下× 他△

*** 2025年環境経営目標の達成状況報告 ***

----- 不良損金削減 達成出来ず 原因究明と対策急務 -----

「中期環境経営目標」の初年度にあたり、年目標を掲げ活動してきた。結果は目標10項目に対して達成は7項目だった。3項目未達となった。

- ①未達項目「二酸化炭素排出量削減」-----削減割合以上に売上割合の方がはるかに高いため問題は無いと判断する。昨年以上に目標達成率は高く、より良い環境活動が出来たと判断する。
- ②未達項目「可燃ゴミ削減・廃棄物管理」-----可燃ごみはわずかに増加。主な要因として、設備メンテナンス時にウエスを大量に使用したことなどが考えられる。
- ③「不良損金削減」については、月平均目標230,000円を大幅に上回り、359,586円となった。高額製品の増加も要因の一つであるが、今後は品質保証体制のどこに問題があったのか、原因究明と対策が必要である。

(環境管理責任者)

環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価 (個別)

1 二酸化炭素排出量の削減について

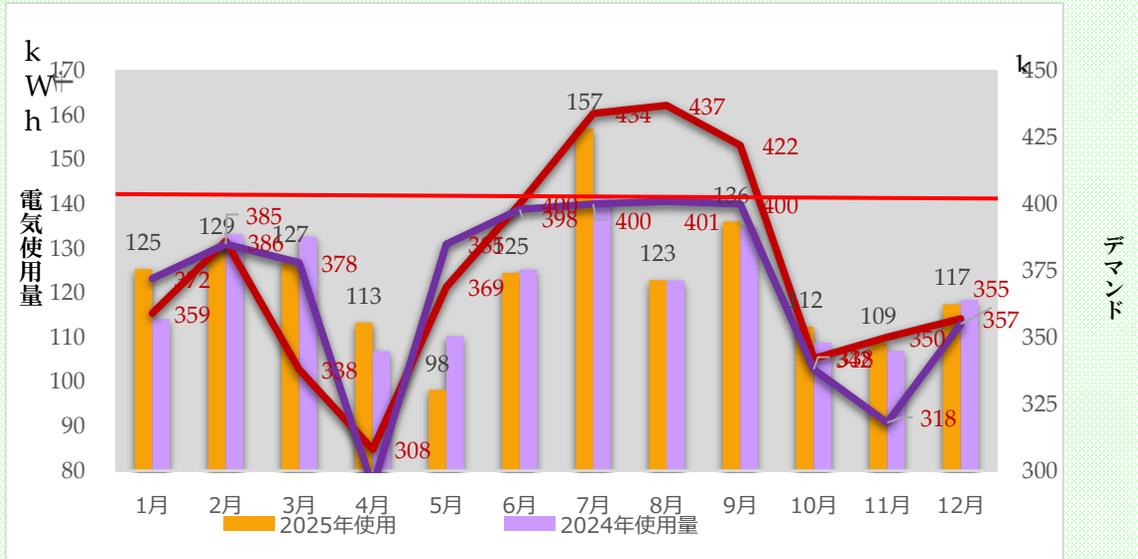
①二酸化炭素排出量 2025年目標 685,697kg-CO2以下-----702,184kg-CO2 達成
 ※削減割合以上に売上割合の方が高いため、達成できたと判断する。



※排出係数0.447 (日本テクノ(株))
 平成28年度 調整後



月別電気使用量・最大デマンド



※電気使用量とデマンドについて

2025年6月より熱中症予防対策が義務化され、3階食堂および会議室に新たにエアコンを設置した。これに伴い、デマンド規制値を400から450へ変更した。結果としてデマンド値自体は上昇したものの、電気使用量については懸念するほど増加しておらず、むしろ2024年と同程度、もしくはわずかに減少する結果となった。ただし、近年の猛暑傾向や熱中症対策の必要性から、夏季の空調調整は年々難しくなっている。

②エコ通勤日数 31日/月以上(冬季除く) ----54.9日/月 全月達成



※9月には、恒例となっている長野県主催の「信州スマートムーブ通勤ウィーク」に参加した。

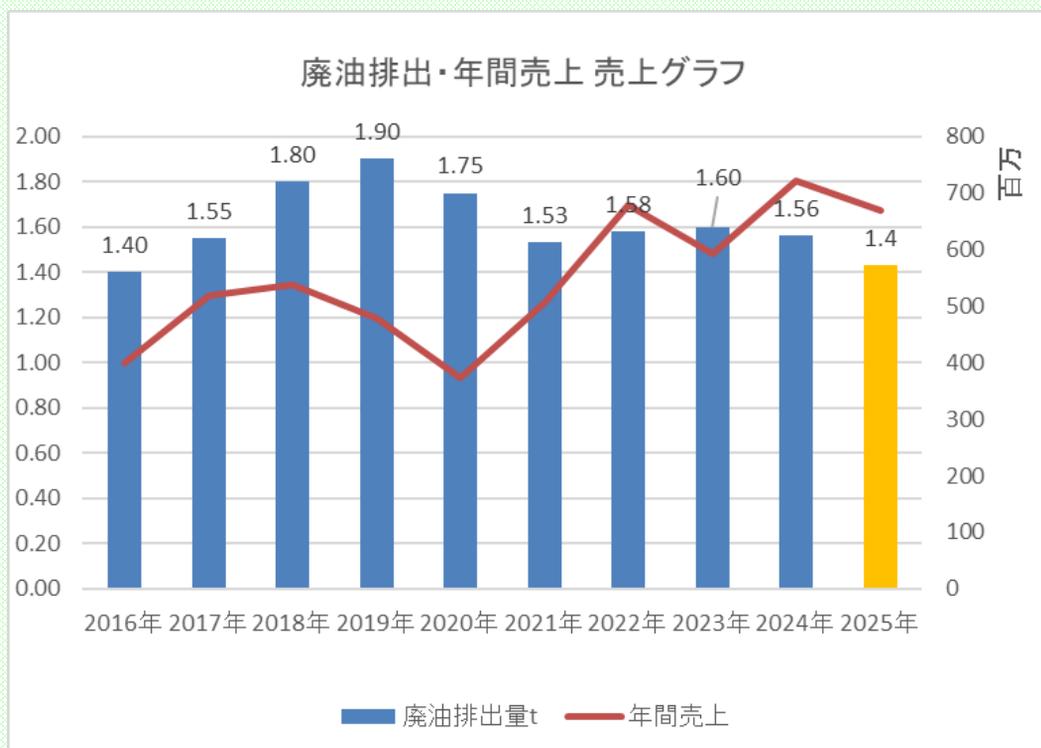
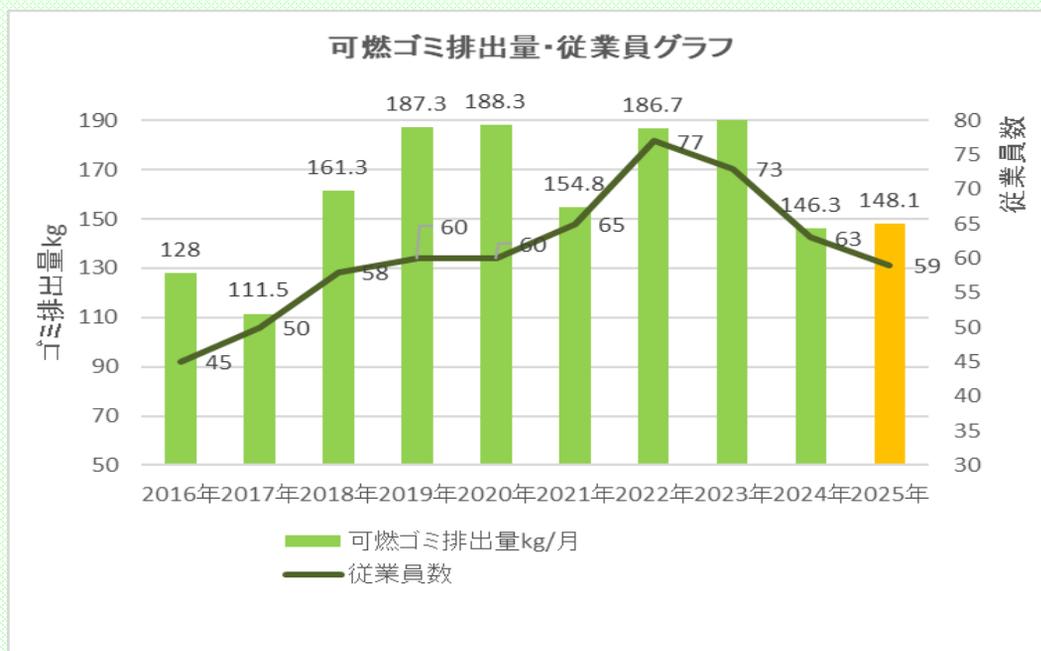
2025年はエコ通勤者が減少した。主な要因として、従業員数の減少、遠方からの通勤者増加、そしてエコ通勤者数名の退職が挙げられる。

2026年については、目標値を見直したうえで、引き続き本活動を推進していく。

2 廃棄物排出量削減

①可燃ゴミ145.6kg/月以下-----148.1kg/月 未達成（目標値10%未満）

②廃油 1.55 t /月以下-----1.4t/月 目標達成



※可燃ごみはわずかに増加。主な要因として、設備メンテナンス時にウエスを大量に使用したことなどが考えられる。

3 水使用量削減 数値目標 103.3 t/月以下 ----- 82.1 t/月 達成



※水使用量が減少している主な要因は、従業員数の減少によるものと考えられる。

4 化学物質使用量削減 目標 取引先使用禁止物質の使用中止 ----- 達成
 製造部門・管理部門が維持継続中

5 グリーン購入の実施 目標 グリーン購入の維持 ----- 達成
 総務・管理部門が維持継続中

6 製品への環境配慮

① 工程時間削減又は合理化による負荷・無駄の削減 ----- 達成
 製造部門・技術部門で活動

② 売上・利益アップ ----- 達成
 3部門対象（管理・総務・技術）で活動

③ 不良損金削減 23万/月以内 ----- 359,586円/月 未達成
 品質管理 機械部門---品質、安全衛生、環境からのアプローチをかけ重点目標として活動してきた。特に3Sの徹底

7-2 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

2026年 環境経営計画書

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等	2025年の主な行動計画
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素の排出量削減	総務部門長/ 全社	前年実績 0.5%減 (対 昨年月毎)	①デマンドコントローラー等による監視・管理 ②節電対策実施 ③節電設備・ 適正な機械稼働の実施 ④空調・コンプレッサ節電管理 ⑤節電表による管理
	冬季(12月～2月)を除いた エコ通勤の 維持継続・エコドライブ実施 (管理部門)	総務・管理部門長/ 全社	25日/月以上	①エコ通勤呼びかけ、活動報告掲示 ②駐輪場整備・自転車点検整備等 ③エコ通勤イベント参加 ④社用車のエコドライブの実施
廃棄物排出量削減	可燃ゴミと廃油削減	総務・機械部門 長(廃油)/全社	前年実績 0.5%減 (ゴミ144.8kg/月 以下) (廃油1.55t/月以 下)	①リサイクルゴミ仕分け徹底呼びかけ ②月ごと結果発表掲示 ③ウエスの油分離 ④電子媒体促進、配布書類削減 ⑤廃棄切削油把握削減 ⑥油漏れ対策
	機械・備品の長期使用	製造部門長/ 製造部門	部門目標	①修理の実施 ②予知保全を考慮した各種設備日常・定期点検の実施 ③整備点検・設備前教育の実施 ④保全関連技能検定合格
水使用量削減	水使用量維持管理	総務部門長/ 全社	前年実績0.5 %減 (102.9 t / 月以下)	①毎月使用量内訳再把握 ②水漏れ点検 ③生活排水・切削水・洗浄水等の節水管理 ④月次水使用量のグラフ作成掲示
化学物質使用量削減	使用禁止物質の使用禁止 使用化学物質削減管理	管理・製造 部門長/ 同部門	維持 部門目標	①使用禁止物質の含有量調査(客先調査協力時)記録 (管理部門) ②新規溶剤等購入時にSDS取得 ③主要溶剤・切削油管理・削減(製造部門)
グリーン購入の実施	グリーン購入継続維持	総務・管理 部門長/ 同部門	活動維持	①グリーンサプライヤーからの購入維持 ②グリーン調達基準に基づく購入継続
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・ 技術各部門長/ 同部門	部門目標	①新規品の取り込み、新規開拓 本業強化 ②適正な刃具・工具・備品購入・人工対応 ③経費節減 営業外収益
	工程時間削減・環境負荷削減 の工夫	製造・技術 部門長/ 同部門	部門目標	①工数把握 加工時間短縮 ②工程管理表の有効活用 ③プログラム修正 ④工程削減治具作成 ⑤外段取りの構築 ⑥環境負荷削減の工夫・改善・検証
	不良損金削減	品質管理部門長/ 機械部門	21万/月以下	①品質安定化(クレームゼロ)不良集計表の作成・掲示 ②3Sの徹底 ③不良原因調査・対策実施 ④不具合対策表・不良損金報告書作成

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

最新の「環境法令等登録兼チェック表」

適用法令	項目・条文	内 容	対象品・施設	チェック内容	判定 ○/×
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : R4.6.17改正 (H23.4.1施行) 水銀に関する 水俣条約 (H29.8.16)	12条2 (産業廃棄物保管基準)	1 保管場所の囲い、構造耐力安全であること 2 必要な事項を記載した掲示板60×60以上 3 保管場所からの産廃の流出等防止、保管場所の衛生管理	・ゴミ置き場 ・廃油置き場 ・危険物置 場	総務部門 1確認済 2確認済(清掃) 3確認済	○ ○ ○
	12条3 (委託の基準) 12条の3 (産業廃棄物管理票)	1 産廃委託する場合種類ごと、運搬先ごと引渡し時に必要事項を記載してマニフェストの交付とその写しの回収(90日、最終処分180日)回収出来ない場合の措置と報告義務 2 マニフェスト(写し)の5年保管 3 マニフェスト発行状況の報告を毎年6月30日までに都道府県知事へ提出	委託契約書 許可証 マニフェスト(管理票)	確認済 確認済 1確認済	○ ○ ○
12条7	2 マニフェスト(写し)の5年保管 3 マニフェスト発行状況の報告を毎年6月30日までに都道府県知事へ提出 廃棄物保管場所の掲示板表示	マニフェスト報告書	2保管中 3提出済(2025/6/3)	○ ○	
2025/10/30 確認			産廃置き場	○	
家電リサイクル法 H23.6.24改正	6条 (事業者の責務)	特定家電長期使用、排出抑制 廃棄の際、適切な引渡し・料金支払	テレビ・エアコン・冷蔵庫 洗濯機	総務2017/11 以降 廃棄無し	○
小型家電リサイクル法 H25.4.1		可能な場合、対象物を分別して認定業者に渡す事	携帯電話・デジタルカメラ他	総務 2025年は該当無し	○
水質汚濁防止法 : H23.8.30 改正	12条	特定施設ではない 排水基準に適合しない排水を排出禁止 (コンプレッサーのドレイン水の油水分離)	コンプレッサー 2台 排水管理	業者点検実施済 継続中(月1回) 技術部門・社長 問題なし	○
下水道法 : H26.6.13 改正	12条の2	① pH9を超える処理液の場合は、水質汚濁防止法別表1の65酸又はアルカリによる表面処理施設に該当し、特定施設となる。(届出等必要) ② 下水道には下水道基準(pH9等)を超える排水を流さない。	バレル室 第二洗浄室(脱脂) 工場内洗面所	機械仕上 第二工場 ①現状該当無 ②バレル室は現在水のみ 第二工場は希釈して排水を実施中	- ○

騒音規制法 :H17.4.27改正	6条 (設置の届出) 伊那市環境保全 条例 (12条)	特定施設を設置する場合市町村長へ届出 (コンプレッサー2台) 発生する騒音の規制 届け出のみ(伊那市) (70-65db以下)	コンプレッサー (37kW2台)	総務部門 届出済 2022/8/25 1台入替 2022/9/5届出済 2015年 コンプレッサー 点検実施	○ ○ ○
消防法 H26.6.13 危険物の規制に 関する規則 H23.2.1 危険物の規制に 関する政令 伊那市条例	9条3 第18条 同省令 14条3の2	指定数量以上の危険物があるか 届出しているか ①危険物標識の掲示 ②既設地下貯蔵タンクの流出防止対策等 2024/10/15までの対策実施済 定期に点検し、その点検記録を作成し、これを 保存 指定数量以下(1/5以上)届出(消防署)	地下タンクの 石油 地下タンク 地下タンク 地下タンク 少量危険物置場	総務部門 確認済 届出済 ①確認済 ②2022/10/7 ライニング工事実 施済み 届出済 2025/11/14 定期点検実施済 届出確認済	○ ○ ○ ○ ○ ○
特定化学物質の 環境への排出量 の把握等及び管 理の改善の促進 に関する法律: H14.12.13	2条 5条 (排出量等の把 握及び届出) 14条	第一種指定化学物質等取扱事業に該当するか (第一種指定化学物質のいずれかを1年間に 1t以上取り扱うか) PRTR制度より排出・移動量の届出(6月ま で)	把握後判定	総務部門 非該当	○
フロン排出抑制 法 H27.4.1	施行規則による	①機器の設置環境・使用環境維持保全 点検・修理を行う作業空間の確保はできて いるか ②簡易点検・定期点検の実施をする 簡易点検 1回以上/3ヶ月7.5kw未満 定期点検 1回以上/1年----50kw以上 1回以上/3年----7.5kw以上 50kw未満 点検整備記録の作成・保存 ③フロン漏洩時の措置 修理が終わりまで充填禁止 一定以上の漏洩は国へ報告義務 ④フロン充填・回収、製品の廃棄は「第一種 フロン類充填回収業者」へ委託 必要書面の交付・保存をする	各所工場設置箇 所	総務部門 設置部門 ①確認OK ②簡易点検実施済 み3月ごと ③漏洩無し ④該当無し	○ ○ ○ -

2025年11月 10日現在の環境法令遵守状況をチェックし、法令に遵守していることを確認しました。また過去3年間違反・訴訟の無いことを報告します。

2025年11月 10日 総務部門長 中村 理絵

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

-----昨年のマネジメントレビューでの代表者からの課題-----

1. 二酸化炭素削減について
品質安定化（クレームゼロ）、製造工程短縮、適正な機械・空調・コンプレッサー等の稼働
2. 省資源
使用化学物質・廃棄物・水の使用量の削減、適正な刃具・工具の購入
3. 教育
環境活動・品質活動・安全衛生活動への意識づけ

-----結 果-----

環境活動は、品質目標である「客先クレーム 0件/月」の達成に大きく貢献しており、当社では労働安全衛生活動も含め、三位一体の取り組みとして位置づけている。これらの活動そのものが生産活動であり、経営そのものであると考えている。結果として企業利益にもつながっている。しかしながら、2025年は「客先クレーム 9件」となり、目標を達成することができなかった。今一度原点に立ち返り、原因の徹底究明と、再発を防止する仕組みづくりが課題である。

また、機械設備・空調・コンプレッサー等の適正稼働については、日常点検を継続しており、適切な設備管理ができていると考える。

省資源については、水源投入量の管理が適切に行われ、目標を達成することができた。また、化学物質使用量の削減についても、適正な管理が継続されている。さらに、刃具・工具の適正購入に関しては、刃具・工具・治具の整理を実施し、必要なものについては必要数量のみを購入する運用へと改善した。不要なものについては売却を行うなど、在庫の適正化を進めた結果、省資源の実現につながった。

2025年の環境目標は中期目標の初年度であり、10項目中7項目を達成した一方、3項目は未達成となった。

特に「不良損金削減」については、月平均目標230,000円を大幅に上回り、359,586円となった。高額製品の増加も要因の一つであるが、品質管理部門を中心に、品質保証体制のどこに問題があったのか、原因究明と対策が必要である。

2026年からは中期目標の2年目として活動を進めていく。

中でも最大の課題である二酸化炭素削減目標については、当社の2030年SDGs目標を踏まえた取り組みとしていく必要がある。

来年度から新たな中期目標を設定して活動していくが、二酸化炭素削減は引き続き最重要課題として位置づけ、2030年目標との整合性を図りながら進めていきたい。

<環境管理責任者> 中村 理絵

-----代表者からのコメント-----

「品質の安定」 = 「環境活動」と捉え、今一度原点に戻って活動してください

2025年は、環境経営方針および環境経営目標の達成に向けて策定された「中期環境経営目標」の初年度にあたります。

具体的には、「2025年 環境経営活動計画書」を全社計画とし、各部門では「環境目的・ 目標部門計画書兼報告書」を作成して活動を進めてきました。

2023年、2024年と徐々に成果を上げてきたこともあり、2025年も改善が進むと期待していました。

しかし、10項目の「具体的目標」のうち、一項目が大幅に悪化する結果となりました。

環境経営の中でも重要な位置づけである不良削減が、金額ベースで大きく悪化してしまいました。

これは環境面だけでなく、品質・経営にも大きな影響を及ぼす重大な課題であります。

2026年は、中期目標の2年目として、品質管理部門を中心に、機械部門・技術部門が同じ目標を共有し、協力して品質維持・向上に向けた活動を進めてください。不良発生の本質的な原因の究明と対策について、3部門が連携して取り組むことが不可欠です。

環境方針変更の必要性 有 無

環境目標変更の必要性 有 無

環境活動計画及び環境経営システム等の変更の必要性 有 無

<代表取締役> 平澤 敏樹

10. その他の取り組み・トピックス

10-1. 6年連続して「健康経営優良法人」の認定を受けました



約半世紀にわたり、平沢電機が着実に実績を積み上げ、業績を伸ばしてこられた原動力は、社員一人ひとりが持つ無限のエネルギーと、その力を最大限に発揮できる体制づくり、そして働きやすい組織風土にあります。2020年には、当社として初めて経済産業省の「健康経営優良法人2020」に認定されました。以降、2022年から2024年まで継続して認定を受け、今年も「健康経営優良法人2025」として認定されております。現在、2026年の認定についても申請中であり（2026年3月に認証企業発表予定）、今後も継続的かつ積極的に健康経営の推進に取り組んでまいります。

10-2.

地域エネルギー利用最適化・省エネルギー診断 (ウォークスルー診断(工場・事業所全体プラン)) 受診しました

省エネおよび二酸化炭素削減の取り組みとして、平沢電機(株)は外部の登録診断企業によるエネルギー診断を受けました。

<総括(カーボンプランニング(株))>

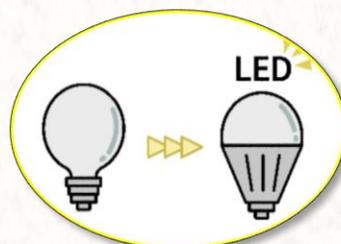
施設全体のウォークスルー診断の結果、**運用改善6件、投資改善4件**の提案をいただきました。

運用改善については、室外機フィルターの洗浄など比較的取り組みやすい内容が多いため、稼働が低い時期での実施が推奨されています。

主な指摘事項

- 1) 消費電力量および最大電力の多くは、生産設備によるものと判断される。
- 2) 一部の空調機・変圧器・エアコンプレッサーは使用年数が長く、効率低下が懸念されるため、更新を検討をすべきである。
- 3) 照明については、多くがLED化されており、一定の省エネ対策が進んでいる。

なお、指摘事項2に関しては、**2025年末に変圧器およびコンプレッサーの更新を実施しました。今後さらなる高効率化と省エネ効果が期待できる状況です。**



10-3 長野県 SDGs推進企業としての取組み、報告

2021年4月「長野県SDGs推進企業登録制度」に登録されました。

2024年4月に1回目の更新を行ないました。

働きやすい職場環境で一人一人が健康で幸せな生活を送れる会社、地域に根ざしながらも新しい分野へ果敢に踏み出せる活力ある会社を目指しています。

SDGs達成に向けた経営方針等

弊社の経営理念である「この豊かな自然環境に感謝と誇りの念を持ち、一人ひとりが人と地球にやさしい工場作りをしていきます」は、SDGsの達成と目的を同じくするものであり、すべての人々が幸せを感じられる社会の実現に向けて、我々が自覚を持ってその役割を果たしていくことにより、社員一同SDGsの達成に貢献していきます。

上記経営方針はエコアクション21の活動だけでなく、労働安全衛生目標の中にも具体的な活動目標を掲げ日々の活動として推進しております。

SDGs達成に向けた宣言(目標) と 2025年結果報告

1. 2019年 CO2排出量の10%減

2030年目標 62.86t
→2025年排出量 70.20t

2. 全従業員雇用に対する高齢者(60歳以上)と身体障がい者、女性の雇用比率向上

2030年目標 65%
→2025年 63%

上記の支援活動として

- ① 女性従業員 子育て支援は2名、男性 1名 育休取得実績あり。
- ② 子どもの学校行事等参加有給支援者 多数
- ③ 個々の事情を考慮して、時間差勤務も可能



SDGs

REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL
GOVERNMENT



10-4 10月に総合防災訓練・全体研修を実施

1 総合防災実施

10月10日に実施。計画では各職場で地震後火災が発生（職場にて火災の発生の状況が異なる）、地震時の待機後の初期消火対応・特に避難行動に重点を置いた訓練とした。初期消火のあとは前回同様①濃煙火災時の煙からの避難方法の確認、②対象排煙窓の開放、③設定した避難時間内に避難する事、以上を重点とした訓練とした。また油火災に伴って訓練用の消火器を使った消火訓練を行なった。

結果として、事前にアナウンスで再度避難行動の確認事項を指示した上で行なう事でより明確にした。また訓練前の準備として部門毎に各職場での火災発生のリスクの高い場所の選定、排煙窓開閉の確認、自衛消防隊名簿や役割の見直し、データのバックアップ、重要持ち出し品の確認、連絡網の見直し等を行なった。いずれも毎年繰り返す事により、非常時の対応を確実にすることを目的とした訓練となっていた。重点をおいた避難行動についてはしっかり出来ていた。

また今回訓練用消火器を使った訓練を行なった。実際の消火器を使用したことが無い者も多く、消火手順が確認できたことはよかった。

「油漏れ訓練」については例年通り環境マニュアル通りに訓練が出来るか、その確認のための訓練とし、バキューム方法やオイルソックスの場所の再確認ができた。

2 全体研修等実施（防災訓練後の集合研修として）

- 1 情報セキュリティ対策講座----- 講師：東京海上火災保険 富澤様
- 2 社長によるCSR教育 ----- 当社のCSR規程について説明を行なった
- 3 BCP変更についての説明 ----- 重要取引先変更、豪雨災害対応、
例年同様、各自「従業員携帯カード」の記入。
- 4 エコアクション21環境活動について ----- 可燃ゴミの分別ルールの徹底と、節水をお願い。
- 3 社長によるCSR教育 ----- 当社のCSR規程について説明を行なった

<研修まとめ> 今回初めて、「情報セキュリティ対策講座」を外部の講師をお招きし実施。

一人一人のセキュリティ対策が重要であると再認識でき、有意義の有る講座であった。



初期消火訓練風景

防災訓練風景





消火訓練



油漏れ訓練

研修風景

